



矢部 大介 先生

略歴

1998 京都大学医学部医学科卒業, 2003 テキサス大学サウスウェスタン大学院卒業 (Joseph L. Goldstein教授, Michael S. Brown教授, PhD取得), 2003 京都大学大学院医学研究科分子生物学JSPS特別研究員, 助手 (本庶佑教授), 2007 関西電力病院糖尿病・栄養内科医員, 副部長 (清野裕院長), 2011 神戸大学医学研究科客員准教授 (清野進教授), 2013 関西電力病院糖尿病・代謝・内分泌センター部長, 疾患栄養治療センター長, 2015 関西電力医学研究所副所長, 2016 京都大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌・栄養内科特定准教授 (稲垣暢也教授), 2018 岐阜大学大学院医学系研究科内分泌代謝病態学教授, 岐阜大学医学部附属病院糖尿病代謝内科長/免疫・内分泌内科長, 2019 神戸大学客員教授, 2020 東海国立大学機構医療健康データ統合研究教育拠点教授, 岐阜大学医学部附属病院病院長補佐/国際医療センター長

所属学会・協会

日本糖尿病協会 (理事), 日本糖尿病学会 (学術評議員), 日本病態栄養学会 (理事), 日本体質医学会 (理事), アジア糖尿病学会 (理事), 国際糖尿病連合西太平洋地区 (理事) など

受賞

アジア糖尿病学会 The Masato Kasuga Award for Outstanding Scientific Achievement, 日本病態栄養学会 アルビレオ賞, 日本糖尿病協会 ウィリアム・カレン賞, 日本体質医学会 研究奨励賞など

糖尿病をとりまく現状と地域一丸の糖尿病対策の必要性 ～糖尿病医科歯科連携を中心に～

岐阜大学医学部附属病院 病院長補佐/糖尿病代謝内科 科長/免疫・内分泌内科 科長
岐阜大学大学院医学系研究科 内分泌代謝病態学分野 教授
東海国立大学機構 医療健康データ統合研究教育拠点 教授
矢部 大介

わが国では、2005年に日本糖尿病対策推進協議会が設立され、2010年以降、日本医師会、日本糖尿病学会、日本糖尿病協会、日本歯科医師会が幹事団体として、様々な関連団体と連携して、糖尿病に関する啓発事業を展開している。2008年から特定検診・特定保健指導が開始され、糖尿病の発症・重症化予防に向け、教育や支援が全国で展開され、2016年の国民健康栄養調査では、わが国の糖尿病患者は1,000万人、予備軍の1,000万人と合わせてその合計は約2,000万人であったが、2012年での約2,050万人と比して僅かに減少に転じている。しかし、糖尿病は合併症出現まで自覚症状が乏しく、治療を拒む患者が多いため依然4分の1が糖尿病治療を受けていない。特に、より厳格な血糖コントロールが必要な若年層では4割が糖尿病治療を受けていない。糖尿病合併症の重症化に伴う透析導入や失明、下肢切断、歯周病による歯牙脱落などを考慮すると、患者が糖尿病の継続治療の重要性を発症早期に学ぶことができる体制づくりを、かかりつけ医・かかりつけ歯科医・病院・地域行政、さらには企業等が連携してなお一層強化することが重要である。このような背景から、日本糖尿病協会では、2007年から日本歯科医師会と連携し、日本歯周病学会の支援のもと、日本糖尿病協会登録歯科医制度を設立し、歯周病を有する糖尿病患者に糖尿病に造詣の深い歯科医師を紹介できるよう検索ページを充実すると共に、2010年から歯科と医科の円滑な連携を支援する糖尿病連携手帳を発行している。さらに、2016年の診療報酬改定では、糖尿病患者に対して医科保険医療機関からの診療情報提供にもとづく計画的な抗菌薬注入療法（歯周疾患処置）が、2020年には機械的歯面清掃処置が保険適応となり、医科歯科連携の重要性がなお一層強く認識されている。本講演では、超高齢社会を迎えたわが国の糖尿病診療の現状や課題を概説する共に、糖尿病治療における地域連携、特に医科歯科連携の更なる活性化に向けた方略を、みなさんと一緒に考えたい。